

# 灯



先般、台湾南部嘉義市のロータリークラブの式典に出席し、翌日は希望して台南市の烏山頭ダムを訪れた。このダムは日本統治時代に八田与一技師を中心に10年の歳月をかけ1930（昭和5）年に完成し、不毛の地であった嘉南平野を台湾随一の穀倉地帯に変身させたかんがい施設である。

八田氏はダム完成後、新たな赴任地へ渡航中に船が撃沈され死去したという。台湾での彼の功績に対する感謝の念は強く、氏の銅像が作られ一時期は蔣介石政府に没収されないよう現地の人が隠したそうだが、今日では銅像と隣に作られた夫人の墓の前で毎年慰霊祭が行われている。さ



草野 義輔

らに銅像を中心に記念公園の整備が着々と進められており、市民の憩いの場所としても人気があるという。今回も小学生たちが写生に取り組んでいる様子を見た。

日本が台湾を去って60年以上たった今でも慰霊祭が行われていることは、中韓の歴史認識対応とは大きな差を感じる。この差は歴史認識を政治利用するかどうか、あるいは素直に歴史事実を見つめているかどうかだと思う。

近年、台湾のロータリークラブが八田氏の銅像の周辺に約800本の桜の木を植えた。われわれも少しだけ支援させてもらったが、大切に慰霊祭を行ってくれる台湾へのささやかな感謝の気持ちである。台湾と日本、相互に感謝の象徴と言うべき地だと感じた。（昭和学校園高校理事・日田市）